

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
<b>1 教育に関する事項</b> <b>(1)入学者の確保</b> ○地域の中学校校長会、教育委員会及びメディア等を通じて積極的な広報活動を行い、本校の認知度を高める。	1 教育に関する事項 (1)入学者の確保 ○中学校等との連携を深め、本校の広報活動を行う。 ○中学校等と連携した事業を進めるとともに、メディア等を通じ、広く社会に向けて広報活動を行う。	○呉市教育委員会と連携し、公開講座(計37回、呉市との連携講座8回を含む)、出前授業(計20回)、びっくりワクワクサイエンスショー(12/11)を実施した。 ○県内の中学校(30校)を本校校長が訪問し、中学校校長に対して呉高専の教育の特色(7年一貫教育の体制強化、インキュベーションワーク、特別推薦の入試制度の導入)などを中心に広報活動を行った。	Ⅲ	有
○本校の学習内容を体験できるような学校見学会、入試説明会、体験イベント等を充実させ、特に女子学生の志願者確保に向けた取組を推進する。	○学校見学会、入学説明会、びっくりワクワクサイエンスショーを実施し、小学生や中学生に理系の魅力を発信する。 ○女子中学生や保護者に、高専における学校生活、女性技術者や女性研究者のロールモデルなどを分かりやすく伝え、高専の魅力について情報発信を行う。 ○女子学生広報部において中学校訪問、イベントを通じて広報活動を行う。 ○女子中学生対象のホームページをリニューアルし、広報活動を活性化させる。 ○専攻科入試説明会を実施し、学内の広報に努める。 ○専攻科における改組の内容や入試内容についてHPでPRに努める。	○7月31日に第1回学校見学会を開催し、昨年度より1名増の368名の生徒(全体で689名)の参加があった。また、10月29日に第2回学校見学会を実施し、昨年度より28名減の107名の生徒(全体で214名)の参加があった。 ○10月9、16、23日の3日間(4会場)で入試説明会を実施し、昨年度より6名増の159名の生徒(全体で346名)の参加があった。 ○12月11日に「びっくりワクワククリスマスサイエンスショー」を開催し、761名(昨年度650名)の参加があった。 ○女子学生広報部がびっくりワクワククリスマスサイエンスショーに広報ブースを出展し、女子学生の活動をPRした。 ○学校見学会において女子学生なんでも相談室を設置し、女子中学生とその保護者に高専の魅力を伝えるだけでなく、就職活動あるいは進学のための活動等々の進路についてもPRした。また、併せて簡単な工作キットを使用し、工作を通じて工学への興味を醸成した。 ○本校女子学生が春期休業中に6校訪問し、本校のPRを行った。 ○女子中学生対象のホームページのリニューアルに向けての準備をした。 ○専攻科志願者対策として、4月13日に本科生対象に専攻科入試説明会を実施した。また、平成29年1月13日にはSAPARの一環として、本科3・4年生を対象に専攻科の魅力について紹介した。 ○専攻科における改組の内容や入試内容について、HPでPRに努めた。	Ⅲ	有
○中学生やその保護者に本校の特徴を効果的に周知できる広報資料を作成する。	○中学校訪問における訪問先、訪問時期、訪問方法の更なる見直しなどを行い、効果的なPR活動を実施する。 ○本校を紹介するホームページ等の充実を図る。	○本校教員による県内の中学校訪問を、校長による中学校訪問(トップセールス)に改め、中学校・高専とも校長レベルの面談による広報活動に改めた(30校実施)。 ○専攻科における改組の内容や入試内容について、HPでPRに努めた。 ○本校ホームページ内の各項目(各月毎)の閲覧数の集計方法について、実態に基づいた集計方法に変更した。その結果、「呉高専日誌」の閲覧数が極めて多く、1か月当たり1万から4万件の閲覧数があることが分かった。呉高専日誌の各項目「教育・研究」、「クラブ活動」、「イベント等」ができるだけ均等に露出するように調整し、分かりやすくなるよう見え方を改善した。	Ⅲ	有
○本校のアドミッションポリシーにふさわしい人材を的確に選抜できるような入試を適切に実施する。	○本校の教育にふさわしい人材を的確に選抜できるような入学選抜試験を実施する。 ○公正な試験を実施し、入試ミスの防止のための措置を講ずる。 ○平成27年度入試から実施している特別推薦制度の内容を再検討し、より優秀な学生の獲得に努める。 ○専攻科推薦入試において、改組に伴って、受験資格の見直しを行い、優秀な学生の確保に努める。	○平成27年度入学生より導入した「特別推薦」を、学校見学会、中学校訪問、入試説明会で周知に努めた。 ○機構本部からの情報を参考に、学力入試へのマークシート方式の導入に伴う対応を検討した。 ○平成29年度入試の推薦入試について、適性検査を個人面接の中で実施することに改め、個人面接のやり方と配点を見直した。 ○専攻科の推薦入試は、5名の志願者があり、5名が合格した。また、学力入試では、28名が受験し、25名が合格した。 ○専攻科定員40名に達しないため、2次募集を11月2日に実施し、3名の志願者があり、2名が合格した。 ○専攻科入試改革として、平成29年度入学生から数学の試験において外部評価の利用を可能とし、学力入試(2次を含む)の31名の受験者中、16名が数学の試験における外部評価を利用した。 ○第4ブロックの他高専と協力し、マークシート対応の共通予備問題を作成した。これにより採点業務の合理化を図ることができた。	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ:「実施していない」、Ⅱ:「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ:「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
<p>○女子学生の受入れをさらに推進するとともに、入学志願者の質を維持する。</p>	<p>○「良い学生を育てる」ことを通じ、中学生に実績をPRし、入学者の学力水準の維持・向上に努める。 ○女子中学生をより多く受け入れるために女子学生によるイベントの企画・運営等に係る活動等の取組を促進する。</p>	<p>○全学生・全教員によるインキュベーションワークを導入し、学生の主体的・積極的な学習姿勢の教育に努めた。 ○学校見学会などを通じて、女性技術者の社会での活躍の実情を広報した。 ○女子学生広報部のメンバーが各種イベントの内容を企画、運営した。 ○社会で活躍している女性技術者と女子学生との交流会を12月17日、2月22日に実施した。 ○上記の取組に伴い平成29年度入試では前年度を上回る志願者(推薦入試213名、学力入試201名)を確保することができた。</p>	Ⅲ	有
<p>(2)教育課程の編成等 ○呉高専教育改革検討プロジェクトの答申(平成26年5月)に基づき、「地域発・インキュベート型教育」へ教育体制を転換する。 ○専攻科は一本化へと改組する。</p>	<p>(2)教育課程の編成等 ○「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行う。 ○4高専(徳山・宇部・北九州)連携教育において、前期は生命科学、後期数学応用工学Ⅰ、物理応用工学、化学応用工学、経営管理工学を実施する。 ○専攻科改組に伴うH28年度新設科目を適正に実施する。またH29年度新設科目の準備を行う。 ○H28年長期インターンシップを実施し、実習期間中は学生のフォローを行う。また次年度に向けて、長期インターンシップ受入先の確保を行う。</p> <p>○7年一貫教育も見据えた本科のカリキュラムの見直しを検討する。</p>	<p>○「地域発・インキュベート型教育」の実践として、「インキュベーションワーク」を全学年において行った。 ○平成27年度の4高専(呉・宇部・徳山・北九州)連携教育は、今年度、5高専(呉・宇部・徳山・北九州・広島商船)に拡充した。前期に生命科学(徳山・宇部・呉)、後期は数学応用工学Ⅰ(宇部・呉)、物理応用工学(呉・宇部・徳山・北九州)、化学応用工学(宇部・徳山・呉・北九州)、経営管理工学(呉・宇部・広島商船)を行った。 ○専攻科改組に伴う新設科目を実施するとともに、H29年度実施に向けた科目準備(プロジェクトデザイン工学演習など)を行った。 ○H28年長期インターンシップを実施し、23名の学生が参加した。</p> <p>○新カリキュラムを検討してきたが、高専イニシアティブ4.0に合わせて新たに「地域実践教育プログラム(仮)」を導入することになり、このためのWGを新たに発足した。今後は7年間一貫教育を見据えた本科改組を検討する予定である。 ○平成28年度の専攻科改組に伴って、特例適用申請を行い、機械工学分野、電気電子分野(電気情報工学分野)、土木分野(環境都市工学分野)、建築学分野の全てで認められた。</p>	Ⅲ	有
<p>○学習到達度試験やTOEICなどを活用して基礎学力を把握するとともに、技術者として必要な基礎能力の向上を図る。</p>	<p>○学習到達度試験やTOEICを実施して基礎学力の定着度を検証し、技術者として必要な基礎学力の向上を図る。 ○専攻科改組に伴うH28年度新設科目を適正に実施する。またH29年度新設科目の準備を行う。</p>	<p>○6月7日に専攻科1年生を除く全学生を対象とした英語統一試験を実施した。 ○4月10日、6月26日、12月11日のTOEIC公開テスト団体受験の手続きを希望者を対象に行った(合計157名申込)。 ○12月10日にEmaT試験を実施し、139名が受験した。 ○1月12日に数学及び物理の学習到達度試験を実施し、数学は全国上位、物理はほぼ全国平均の結果であり、昨年と比較して若干下がった。 ○専攻科改組に伴うH28年度新設科目を適正に実施し、29年度新設科目の準備を行った。</p>	Ⅲ	有
<p>○卒業生を含めた学生による授業評価・学校評価を実施し、その結果を積極的に活用する。</p>	<p>○学生による授業評価アンケートの内容を継続的に見直し、より適切なものに改善した上で実施し、教員及び学校運営にフィードバックする。</p>	<p>○教育環境に関しては年二回、学生会と管理職教員とがface-to-faceで話し合う「学校を良くする懇談会」を実施し、グラウンドの夜間照明、学生寮駐車場の自動照明施設など学生の意見をもとに教育環境改善に努めた。 ○専攻科改組に伴い、専攻科棟の内部改修を実施するとともに、研究が機能的に推進できるよう、教員室、実験室、学生研究室などの配置を整理統合した。 ○学生による授業評価アンケートに関しては、昨年度、簡便かつ的確な内容に改めたアンケート票を用いて前期分を7月に実施した。後期分、通年分については1月に実施した。 ○授業評価アンケートの結果を、教員の人事査定に導入した。</p>	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○ものづくりに関連した全国的な競技会やコンテストへの参加を積極的に奨励・支援し、ものづくり能力の向上を図る。	○体育大会、ロボコン、プロコン、デザコン及び英語ブレコン等に積極的に参加し、入賞をめざす。	○ロボコン、プロコン、デザコン、英語ブレコン及び体育大会(地区大会(夏季、冬季))等に参加了。 ○プロコン、デザコン、英語ブレコンでは全国大会に出場し、デザコンについては構造部門で、最優秀賞と優秀賞を受賞した。 ○体育大会(夏季)では4競技が全国高専体育大会に出場し、ソフトテニス女子ダブルスが2年連続で全国優勝、硬式野球が3位に入賞した。 ○上記の成果に伴い学生のやる気や自信が徐々にではあるが芽生えつつある。	Ⅲ	有
○ボランティア活動などの社会奉仕体験活動や自然体験活動などの様々な体験活動を充実させる。	○インキュベーションワーク等を通じてボランティア活動の意義を説明し、社会奉仕体験活動や自然体験活動への参加を呼び掛ける。 ○専攻科プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠで高齢期を疑似体験する演習を行い、課題発見能力と思いやりを有する技術者の育成を行う。	○インキュベーションワークやインターアクトの活動を通じてボランティア活動の意義を、学生に呼びかけた。また次年度に向けて学生提案のテーマが増加しており、学生の自主性が醸成されつつある。 ○専攻科プロジェクトデザイン工学総合ゼミⅠで、23名の学生が高齢期を疑似体験する演習を行い、課題発見能力と思いやりを有する技術者の育成を行った。また、後期には本科の卒業研究に関する発表・討議により多様な視点に基づくプロジェクトデザイン能力の育成を行った。	Ⅲ	有
(3)優れた教員の確保 ○公募制等によって多様な背景を持ち、優れた教育力・研究力を有する教員を採用する。	(3)優れた教員の確保 ○多様な背景を持つ優れた教育・研究力をもつ教員を、公募制により広く募集する。 ○専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募により優秀な人財を確保する。	○定年退職で不補充であった建築学分野の教員1名(助教)を公募した。その結果、公立大学大学院研究員を新規採用者として選考し、来年度から採用が決定した。また、本校教員の機構本部への配置替えに伴い環境都市工学科に民間企業・大学での経験が豊富で技術士資格ももつ教員1名を採用した。 ○専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募し、優秀な人財を確保した。	Ⅲ	有
○教員の力量を高め、学校全体の教育力を向上させるために、他高専、大学等との人事交流を図る。	○民間企業に1名の教員を派遣し、人事交流を行う。	○本校から教員1名(電気情報工学科)を民間企業へ派遣し、e-ラーニングの教材開発を行った。これに伴い次年度のEラーニングの内容が充実することが期待できる。	Ⅲ	無
○専門科目、理系の一般科目については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者を全体として70%、理系以外の一般科目については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を全体として80%を下回らないように採用する。	○専門科目の教員採用については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者を採用する。 ○専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募により優秀な人財を確保する。	○建築学分野は博士の学位を持つ者を新規採用者として選考した。 ○専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募により優秀な人財を確保した。	Ⅲ	有
○女性教員の比率向上を図るためのポジティブアクションを継続して実施するとともに、働きやすい職場環境の整備を推進する。	○女性教職員に配慮した施設の整備を検討する。 ○教員公募に際し、女性のための公募や評価が同等の場合の優先的な採用・登用等を検討する。	○女子学生や女性教職員用トイレのプライバシーを改善するためにトイレブースの改修を行った。また、警報プザーの設置も今後行う予定である。 ○教員公募に際し、評価が同等な場合には女性を優先的に採用することを明記した公募を行った。	Ⅲ	有
○FDなど教員の能力向上を目的とした研修を計画的に実施するとともに、各種研修に積極的に参加する。	○教員の能力向上を目的としたFD研修を計画的に実施するとともに、教職員間で十分な意見交換を行う機会を設ける。	○FD研修を5回(6/2, 7/27, 8/31, 10/7, 12/21)実施し、延べ239名の参加があり、活発な意見交換により教員の能力向上に努めた(12月末時点)。なお、1月25日に予定していた本年度最後のFD研修(英語での教育)はインフルエンザによる臨時休業のため中止となった。	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ:「実施していない」、Ⅱ:「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ:「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○教育活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教員や教員グループを毎年度表彰する。	○教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案するとともに、国立高等専門学校教員顕彰候補者として高専機構に推薦する。 ○教員活動ポイント集計票の仕組みについて微修正を行う。	○教員活動ポイント集計票の結果を総合的に判断し、校長表彰者を提案した。 ○教員活動ポイント集計票の仕組みについて微修正を行った。	Ⅲ	有
○文部科学省等の制度を利用した国内外の大学等の研究・研修への参加を促進するとともに、教員の国際会議への参加を推進する。	○FDの一環として、在外研究員として1名をカリフォルニア大学バークレー校へ、民間企業へ1名を派遣する。 ○教員の国際会議への参加を推進するため、校長裁量経費で支援する。	○准教授1名を在外研究員として1年間、カリフォルニア大学バークレー校へ派遣 ○教授1名を民間企業へ1年間、研修のため派遣 ○校長裁量経費で、国際会議への参加を4名(4件)支援	Ⅲ	有
<b>(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム</b> ○学生の主体的な学びを実現するICT活用教育環境を整備し、モデルコアカリキュラムも導入することにより、教育の質保証を推進する。 ○呉高専教育改革検討プロジェクトの答申に基づき、「地域発・インキュベート型教育」を行うことにより、学生を“世界目線”の技術者へ孵化させ、従来の「ものづくりの中核技術者」に加え、「社会を変える人材」を3%(学科で1人)育てる。 ○専攻科において、他高専と連携することにより、良質な教育資源を有効活用し、教育力を向上させることで専攻科の充実を図る。	(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム ○モデルコアカリキュラムに考慮した教育を行う。 ○ICTを活用した教材及び教育方法、教材管理システムの活用を図る。 ○アクティブラーニングを各科目に適宜導入し、学生の主体的な学習を促す。 ○4高専連携教育を実践するため、ICT機器を活用し、遠隔アクティブラーニングを実践する。  ○高専学生情報統合システムへの対応を検討する。	○モデルコアカリキュラムに考慮した教育を行うため、シラバスをWebシラバスに変更した。これにより従来の紙媒体のシラバスの印刷物を廃止し、印刷費用を節約することができた。 ○アクティブラーニングを全教員が各自の科目で実践し、各自の実践例を報告書に取りまとめた。これについては次年度FDに活用し、授業改善に役立てる。 ○専攻科改組に伴いICT環境が整ったアクティブラーニング室を専攻科棟内に2室整備し、5高専連携教育を実践した。 ○専攻科経営マネジメント(連携教育)にてICT機器を活用した遠隔アクティブラーニングを実践した。	Ⅲ	有
○在学中の資格取得を積極的に推進するとともに、JABEEプログラムを再構築することにより、教育の質の向上を図る。	○在学中の資格取得を効果的に支援する方法を見直し、積極的に推進する。 ○JABEE認定の環境都市工学プログラムを専攻科改組に伴って変更申請する。	○宅地建物取引主任者に関して非常勤講師により「不動産概論Ⅰ(建築学科)」を開講し、学生の資格取得を推奨した(本校建築学科学生13名が宅地建物取引主任者試験を受験)。 ○機械設計技術者試験の受験会場を提供し、本校の学生の受験を推進した(本校機械工学科学生14名が機械設計技術者試験3級を受験)。 ○平成28年度に専攻科の改組に伴ったJABEE受審のために一本化に向けて検討した結果、平成29年度4月に本科4年生に対して、プロジェクトデザイン工学プログラムの提示を行う予定である。 ○JABEE認定の環境都市工学プログラムを専攻科改組に伴って変更申請した結果、平成32年度まで認められた。	Ⅲ	有
○高専間や大学等の多方面における学生の交流活動を積極的に推進する。	○包括連携協定締結校である広島大学をはじめとする大学におけるインターンシップを含め、学生の交流活動を推進する。 ○中国・四国地区高専の専攻科生による研究交流会に参加する。	○夏季休業期間中に、広島大学に本科生3名が校外実習で行き交流を行った。また、長岡技術科学大学に本科生1名が「戦略的技術者育成アドバンスコース」で参加し、交流を行った。 ○専攻科生研究交流会が4月28日～29日に新居浜高専で開催され、専攻科2年生は17名が発表、1年生は15名が発表した。	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ:「実施していない」、Ⅱ:「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ:「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○呉高専教育改革検討プロジェクトから答申された「地域発・インキュベート教育」による特色ある教育への取組や優れた教育実践例を機構へ提供する。	○スマートボードを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を公開する。 ○「地域発・インキュベート型教育」として、「インキュベーションワーク」を全学年において実施し、各メディアを通じて公表する。 ○4高専連携教育においてスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を実践し、公開する。	○スマートボードを用いた授業を実施し、保護者参観公開授業で公開した。 ○「地域発・インキュベート型教育」として、「インキュベーションワーク」を全学年において実施し(70テーマ)、取り組み事例が呉市の広報誌のトップ記事として掲載された。 ○5高専連携教育でスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を高専フォーラムで公開した。 ○5高専連携教育について11月中に学生アンケートを行い、学生の満足度は昨年より改善したが、高いとは言えず、1月5日に関係する高専の専攻科長会議を行い、対応を検討した。アンケート結果については新年度ガイダンス(4月)で学生に対して公表した。	Ⅲ	有
○機関別認証評価の結果を教育の改善に活用する。	○機関別認証評価結果に基づいて、教育を改善するための取組を行う。 ○運営顧問会議を実施し、本校の教育・研究活動についての自己点検評価を行う。	○本校の教育理念や学習・教育目標を基に3つのポリシー(ディプロマ, カリキュラム, アドミッションポリシー)を新たに設定し、3月に公開した。 ○本科新入生(4/4~4/6)、専攻科新入生(4/4)を対象に新入生オリエンテーションを、本科2~5年生を対象に新年度ガイダンス(4/4)を実施し、新しい制度(90分授業など)を周知した。 ○運営顧問会議を3月1日に開催し、本校の教育・研究活動についての自己点検評価を行った。	Ⅲ	有
○インターンシップ等による産業界等との連携を組織的に推進するとともに、地域産業界との連携によるカリキュラム・教材の開発など共同教育の推進を図る。	○本科生の学外実習を積極的に奨励・支援する。 ○専攻科生はH28年長期インターンシップを実施し、実習期間中は学生のフォローを行う。また次年度に向けて、長期インターンシップ受入先の確保を行う。 ○地域の産業界と連携した共同教育を実施する。	○本科4年生169名中、146名が校外実習に参加した。 ○専攻科の1年生23名が長期インターンシップ(5/9~8/4)に参加した。 ○インキュベーションワークの授業立案・実施に当たり、民間企業よりコンサルタント1名にプログラムディレクターを委嘱し、共同教育を立案・実施した。	Ⅲ	有
○企業技術者や外部の専門家など、知識・技術をもった人材に加え、幅広いスキルやネットワークを有した外部人材を活用し、教育体制の充実を図る。	○企業人材や退職技術者を非常勤講師や特命教授(技術アドバイザー)として雇用することにより効果的な技術者教育を行う。 ○地域に対して卒業研究テーマを公募し、地域とともに学生教育を支援する。 ○専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募により優秀な人材を確保する。	○インキュベーションワークの特別講師に外部の方を11名(延べ26名)招聘し、共同教育を実施した。 ○地域に対して卒業研究テーマを公募した結果、8件の応募があり、本校教員の研究分野の整合性からこの内6件を採択し、担当学生がそれぞれの卒業研究テーマを実施した。研究を進めるにあたっては、スポットで依頼者、担当教員、学生を含めて研究の方向性についてディスカッションを行った。 ○専攻科改組に伴う任期付教員において、「グローバル倫理」1名、「プロジェクトデザイン工学演習」2名、「インターンシップ」1名を公募し、確保した。優秀な人材により、それぞれ担当の教育を実施した。	Ⅲ	有
○理工系大学との間で、教員の研修、教育課程の改善、卒業生の継続教育などで、有機的な連携を推進する。	○長岡・豊橋両技術科学大学と連携・協働して、教員及び学生の教育・研究を検討する。	○11月2日に豊橋技術科学大学、12月19日に熊本大学の大学紹介を実施した(12月時点)。また、1月11日に大阪大学、1月23日に豊橋技術科学大学(2回目)の大学紹介を実施した。これにより学生への進路情報をより詳しく提供・説明することができた。	Ⅲ	有
○アクティブラーニングを効果的に実施できるように校内ネットワーク等の情報基盤を整備し、ICT活用教育を充実する。	○ICT活用教育に必要な情報機器及び校内ネットワークシステムなどの情報基盤の整備を進める。 ○eラーニングやスマートボードを利用した授業など、ICTを活用した教育を充実する。 ○4高専連携教育においてスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を実践し、公開する。	○教育センター内の教育環境改善WG1において、平成29年度を想定したパソコン演習室の更新と集約化について検討した。 ○数学などでeラーニングによる教材を実際に使用し、Blackboard移行に向けて到達度試験(CBT)トライアルを物理で10月に実施した。 ○4高専連携教育でスマートボードやビデオ会議システムを用いた授業など、優れた教育実践例や取組事例を高専フォーラムで公開した。	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ:「実施していない」、Ⅱ:「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ:「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
<p><b>(5)学生支援・生活支援等</b> ○学生支援に関する機能の強化・充実を図る。</p>	<p>(5)学生支援・生活支援等 ○学生及び教職員対象のカウンセラー講話を実施する。 ○学生相談室長、学生相談室員の情報共有の機会として相談室会議を定期的に開催する。 ○学生対象の生活習慣調査及び心とからだの健康調等のアンケートを実施し、事後の学生指導を行う。 ○従来の中国地区学生相談室長会議を学生相談室会議とし、学生相談を担当する教職員の高専間の連携を推進する。 ○学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会に参加し、人材育成をはかる。</p>	<p>○カウンセラーによる、本科1・2・3年生および全教職員を対象とした講話を実施した。また、精神科医に適宜本校に来院していただき、助言指導いただいた。 ○相談室長、相談室員による相談室会議を4回開催し、情報共有の場とした。 ○学生対象のアンケートは2回実施し、事後指導を行った。また、生活習慣調査は例年通り実施し事後指導を行った。 ○徳山高専主幹で中国地区相談室会議に室長と看護師が参加し、高専間の連携をはかった。 ○学生支援機構、高専機構等の主催するメンタルヘルス関連の研修会等に相談室員が参加し、人材育成をはかった(特別支援教育士の資格を持つ教員は資格更新講習に参加した)。 ○高専機構の主催するメンタルヘルス関連の研修会等に相談室員が参加し、人材育成をはかった(特別支援教育士資格を持つ教員は資格更新講習に参加)</p>	Ⅲ	有
○寄宿舎等の学生支援施設の整備計画を策定する。	○学生寮のインターネット環境を整備・運用する ○女子入寮希望者の増大に対応して、各寮棟の利用の在り方について検討を加え、整備計画に反映させる	○インターネット環境を整備したうえで、運用上の問題点について把握に努めている。 ○入寮者の増減を把握したうえで、整備計画について修正している。	Ⅲ	有
○各種奨学金制度の情報を学生に紹介し、奨学金の効果的な活用を促進する。	○各種奨学金について分かりやすく学生に情報提供する。	○教員宛メール及び校内電子掲示板を活用し、奨学金の情報提供を行った。その結果、日本学生支援機構奨学金11名、小松育英会奨学金3名、天野工業技術研究所奨学金2名、ウシオ財団奨学金1名、川村育英会奨学金1名、広島県社会福祉協議会交通遺児就学奨励金1名の奨学金を斡旋することができた。	Ⅲ	有
○入学から卒業までのキャリア形成支援を充実させるとともに、就職率については高い水準を維持する。	○学生の進路選択を支援するため、キャリア教育(SAPAR)を実施する。 ○就職・進学ガイダンスを計画的に実施する。 ○就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行う。	○学生の進路選択を支援するため、キャリア教育(SAPAR)に関する、適性検査(12/7)、SPI模擬試験(12/21)、就職活動のための身だしなみセミナー(11/9)などの一連の企画を実施した。 ○編入学試験対策セミナー(4/27、10/26)、就職準備セミナー(6/8)など就職・進学ガイダンスを計画的に実施した。 ○合同会社説明会や編入学試験対策セミナー、就職準備セミナーなど就職・進学ガイダンスを計画的に実施した。 ○就職担当教員が学生の就職希望会社を訪問して情報収集を行った(大阪、東京など 11~3月)。	Ⅲ	有
○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を考慮し、その結果を踏まえて整備、及び省エネ化対策を推進する。	(6)教育環境の整備・活用 ○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを作成する。 ○節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を得る。 ○第四寮3階内部改修工事を延滞なく行う。 ○専攻科棟3・4階教室改修を延滞なく行う。 ○省エネ化対策を推進する。 ○マスタープランに基づき、寮食堂、風呂、誠心館、ならびにインキュベーション・ラボの整備につき検討する。 ○引き続き、平成26年度の監事監査における指摘事項について対応する。	○施設の老朽度・狭隘化、耐震性を調査・分析し、その結果を踏まえ校内環境のマスタープランを継続して検討した。 ○節電アクションプランをHPにアップし、周知と共に節電の協力を依頼した。 ○専攻科改組に伴い、専攻科棟の内部改修を実施した。 ○省エネ化対策を推進した。 ○マスタープランに基づき、第4寮の3階の改修整備を実施した。	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ:「実施していない」、Ⅱ:「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ:「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書館整備について、整備計画をまとめ、概算要求を行う。</li> <li>○平成29年度高専統一ネットワークシステム整備に向け、設計業務を完了させる。</li> <li>○全学的に施設や設備の稼働状況を調査し、全学的な視点に立った施設マネジメントに基づき、整備計画の見直しを行う。</li> <li>○当該整備計画に基づき、産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境の確保、安全・安心対策や環境に配慮した老朽施設設備の改善を計画的に推進する。</li> </ul>			
○安全衛生に関する講習会を継続して実施するほか、実験実習安全必携を配付する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安全衛生に関する講習会を実施する。</li> <li>○実験実習安全必携を配付する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○12月21日に外部講師による「安全衛生に関する講習会」を実施した。</li> <li>○新規採用者及び新入生に対し実験実習安全必携を配付した。</li> </ul>	Ⅲ	有
○男女共同参画を推進するため、各高等専門学校の参考となる情報を収集し、必要な取組を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「男女共同参画推進モデル校」として実施した事業を継続・発展させ、全国高専への男女共同参画の普及を推進する。</li> <li>○男女がともに働きやすい環境整備について検討する。</li> <li>○男女共同参画に関する情報を適切に提供するとともに、ワーク・ライフ・バランスを推進するための意識醸成等環境整備に努める。</li> </ul>	○本校女子学生が春期休業中に6校訪問し、本校のPRを行った。	Ⅲ	有
<b>2 研究や社会連携に関する事項</b> ○全国高専テクノフォーラム等への参加を推奨し、外部資金獲得では組織的、計画的に取り組み、全教員が何らかの外部資金獲得に向けて応募できるような活動を促進する。	<b>2 研究や社会連携に関する事項</b> ○教員全員が自ら研究計画シートを作成し、自己点検・評価委員会の下でその進捗を把握、研究力向上に努める。 ○全教員はMG以上の成果をあげるよう努力する。 ○各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、補助金申請書の査読システムなど実施することで、外部資金獲得を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学内に研究企画会議を設置し、各分野ごとに研究成果報告に関するミニマムゴール(MG)を設定、教員会で全教員に「MG以上の成果をあげるよう」喚起した。</li> <li>○教員全員が自ら研究計画シートを作成し、研究企画会議の下でその進捗を把握、研究力向上に努めた。</li> <li>○各分野ごとに外部資金導入に関する年間計画を立案し、分野内の研究グループでディスカッションを行うなど、外部資金獲得に向けた取り組みを実施した。</li> <li>○補助金申請書の査読システムを実施することで、外部資金獲得を支援した。</li> <li>○上記活動の結果、平成29年度科研費基盤研究(C)9件、若手(A)1件、奨励研究1件採択された。</li> </ul>	Ⅲ	有
○協働研究センターを活用して、産業界や地方公共団体との共同研究、受託研究への取組を促進するとともに、これらの成果を公表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広島県西部工業技術センターやくれ産業振興センターと連携して関連企業との共同研究や受託研究の受入れを推進する。</li> <li>○関連団体の開催する技術説明会などに出展を行い、本校のシーズを発信し、企業等との共同研究への展開を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広島県西部工業技術センター研究成果発表会、環境展、イノベーションジャパン等へ出展し、シーズを発信した。</li> <li>○関係団体と連携し、「次世代ものづくり技術セミナー」を3回開催した。そのうち1回は本校を会場として開催し、大学・企業関係者等28名の参加があった。実技を交えて最新の技術を紹介し、技術相談及び共同研究に向けた相談に対応した。</li> </ul>	Ⅲ	有
○高専機構コーディネータと連携して知財化を推進するための学内ルールを明確化し、漏れのない知財出願ができるような環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知的財産特命教授を講師に知的財産講演会等を実施する</li> <li>○他、特許庁等が主催する講習会を積極的に利用し、教職員レベルアップを図る。</li> <li>○知財担当特命教授のサポートにより教員が発明した知財をブラッシュアップし、明細書等の質を向上させ、特許の出願件数増加を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特許庁が主催する研修会へ参加し、知識の習得に努めた。</li> <li>○3件の特許出願を行った。</li> </ul>	Ⅲ	有
○教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を印刷物、データベース、ホームページなど多様な媒体を用いて企業や地域社会に分かりやすく伝えられる広報体制の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技術シーズ集の充実を図るとともに、地域の推進団体を活用して情報発信を行う。</li> <li>○協働研究センターの発行するセンターパンフレット、シーズ集などを見直し、効果的な広報活動を行う。</li> </ul>	○技術シーズ集を作成、ホームページへ掲載し情報発信を行うとともに、広島県西部工業技術センター、くれ産業振興センター等の地域の推進団体と情報共有を図り、当該団体を通して情報発信を行った。	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○地域の教育委員会等と連携を深め、公開講座、出前授業及びサイエンスショー等を実施し、満足度調査を実施する。	○公開講座等の満足度調査を実施し、分析する。 ○地域企業技術者のスキル向上を目的とした公開講座の充実と、地域の小中学生を対象に理科教室、工作教室、出前授業を実施し、理科教育支援を推進する。 ○「びっくりワクワクサイエンスショー」を実施する。	○公開講座等の満足度調査を実施、分析中である。 ○地域企業技術者を対象とした公開講座を実施した。また、小中学生を対象とした理科教室、工作教室、及び出前授業を実施し、理科教育の推進に努めた。 ○「びっくりワクワククリスマスサイエンスショー」を開催し、761名の参加があり、盛況裏に終了した。	Ⅲ	有
<b>3 国際交流等に関する事項</b> ○「世界に挑戦」をキャッチフレーズにし、海外の大学との学術交流及び海外インターンシップを推進する。 ○海外の教育機関と学術交流を締結し、双方向の交流を推進する。	<b>3 国際交流等に関する事項</b> ○「世界を知る」ため、 ・低学年を対象とした「大連・異文化体験プログラム」を継続して実施する。 ・海外研修としてを3学年全学科が参加する台湾研修旅行を実施する。 ○「世界と対話する」ため、 ・高学年を対象とした「ハワイ大学マウイ校」との交流研修を継続して実施する。 ・中国5県8高専からなる中国コンソーシアムの枠組みの中で、学校の枠を超えて、All English Camp、アジアDAYを実施する。 ・豪州ラドフォード高校のホームステイの受け入れを実施する。 ○「世界に挑戦する」ため、 ・高学年を対象とした「大連大学との学術交流」を電気情報工学科において相互交流する。 ・ISTSにて、国際会議での研究成果発表を行う。 ・機構の海外インターンシップ専門部会委員として、東南アジアを中心に日本企業の受け入れ先の拡充を図る。	○「世界を知る」 ①低学年を対象とした「大連・異文化体験プログラム」を継続して実施した。8月28-31日にかけて実施。参加学生7名。 ②海外研修として3学年全学科(133人)が参加する台湾研修旅行を実施した。来年度から感受性の豊かなより若い2年次に実施する予定。 ○「世界と対話する」 ①高学年を対象とした「ハワイ大学マウイ校」との交流研修を継続して実施した。8/29-9/8、1年生から5年生まで幅広い学年から10名参加。ホームステイ、英語授業などを通じて異文化を吸収した。 ②アジアDAYを実施した。本校や中国地区高専からの学生が参加した。12月17日、約50名が参加し、アジアの建物、文化、習慣、ゲームなどを紹介した。 ③ALL English Campは3月2-3日に実施した。 昨年に続いて中四国地区高専から約50名の学生と13名のNativeの先生が参加した。テーマは上手なコミュニケーションと将来の夢。1泊2日の密度の濃い英語合宿ができて好評だった。 ④豪州ラドフォード高校のホームステイの受け入れを実施した。4月8-14日にかけて生徒14名・教員2名受入。 ○「世界に挑戦する」 ①大連大学との学術交流を実施した。本校から2名を派遣、大連大学から2名を受け入れ、双方向の交流を8月末から9月初めにかけて各々10日間実施。 ②JISTSには1名参加した。海外インターンシップは応募が無く、今後の課題。	Ⅳ	有
○海外留学を希望する学生を支援するため、必要な情報を提供するとともに東南アジア諸国を中心に海外インターンシップを奨励する。	○海外留学を希望する学生に必要な情報を提供し、支援する。 ○海外インターンシップ活動を推進する。	○下記のプログラムで海外留学を希望する学生に必要な情報を提供し、支援した。 ①AIU高校生国際交流プログラムに4名が応募し、1名合格。 ②Japan society junior fellows leadership program2017に応募(2名) ③トビタテ！留学JAPAN プログラムの説明会の情報を、希望する学生に提供した。 その他海外留学に関する情報が入り次第、対象となる学生に向けて情報発信を行った。 ○海外インターンシップは応募が無く、新たな施策が必要である。	Ⅲ	有
○海外からの留学生の受け入れを充実させるため、地域社会、周辺の中学・高校との交流を推進するほか、寄宿舎等の整備について検討する。	○海外からの留学生受け入れ人数を拡大するため、次の活動を実施する。 ・日本語及び英語ホームページの見直しを図り、呉高専の魅力を国内外の留学生にアピールする。 ・国際交流パーティーを、学校周辺の地域の方も交えて実施する。 ○「English ラウンジ」を実施し、ネイティブの教員を囲んで、留学生と日本人学生との交流を推進する。	○海外からの留学生受け入れ人数を拡大するため、次の活動を実施した。 ①国際交流パーティーを実施した。6月3日、50人を超える参加者があった。マレーシアから5名、カンボジアから3名の合計8名。国際交流部が主催し、賑やかに新留学生3名を歓迎した。 ○Englishラウンジを毎週木曜日17時～18時で実施している。 平均10名程度が参加し、ネイティブの先生と会話やゲームを実施。  ○ホームページの見直しについては、次年度の継続課題である。	Ⅲ	無

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる研修旅行を毎年度実施する。	○外国人留学生の研修として、琉球当時の日本と東南アジアの貿易交流について理解を深める沖縄研修を実施すると共に、沖縄高専の海外留学生との交流を深める。	○本校留学生全員の8名と大島商船の学生1名の合計9名の留学生が参加し、12月26-28日の2泊3日の研修を実施した。 首里城で琉球時代の歴史・遺跡に触れたり、琉球村では古民家や三線・踊りなど昔から伝わる伝統文化を体験した。 なお、沖縄高専との交流は相手校の事情で中止となった。	Ⅲ	無
<b>4 管理運営に関する事項</b> ○校長がイニシアティブをとり、迅速かつ責任ある意志決定を行うとともに、校長裁量経費により戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	<b>4 管理運営に関する事項</b> ○校長がイニシアティブをとり、いくつかの懸案事項について迅速かつ責任ある意志決定を行う。 ○校長裁量経費により、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。	○校長のイニシアティブにより、懸案事項であった次の項目に関し、実施した。 ・4月1日に教員会を開催。前年度の達成度評価・総括ならびに当該年度の学校運営方針・目標とその実現方策の周知 ・専攻科を1専攻に改組。定員も本科定員の25%に増やし、7年一貫教育の体制強化へと教育方針の転換。在校生・保護者へ説明会開催。中学校・中学生・保護者へPR ・改組した専攻科の主幹となるプロジェクトデザイン工学演習ならびにプロジェクトマネジメントの内容検討 ・教育理念のもとに、本科・専攻科に対しそれぞれ教育目的・学科と専攻の教育目的ならびに学習・教育目標を見直し、それらに対し「三つの方針(DP, CP, AP)」を策定。HPで公表 ・遠隔地の内側の中学校30校を校長が訪問。教員の負担軽減とPR。本校への評価と要望を今後の運営・方針に反映 ・中学校訪問のルール見直し(選択と集中、指定教員制導入) ・推薦選抜方法の見直し:特別推薦の推薦基準引き上げならびに一般推薦における適性検査の廃止と面談方法の学科間統一 ・専攻科入試:推薦基準、学力入試方法の見直し ・透明化した教員活動ポイントに基づく教員評価、面談と検証 ・クラブ数・クラブコーチ謝金のあり方について見直し ・退職教職員の蔵書の扱いについて申合せの制定 ○機能的でない施設の利用状況改善を目的とし、校長裁量経費を用い、専攻科・協働研究センター棟を中心として、教員室や実験室の適切な再編成を実施	Ⅳ	有
○管理運営の在り方について、各種研修会及び会議で得た情報が共有できるよう、定期的に運営連絡会を開催するほか、管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図る。	○機構等の主催する研修会等へ役職員が積極的に参加する。 ○幹部教職員による意見交換会を定期的に開催するほか、管理運営上の重要事項の伝達方法の改善について検討する。 ○管理運営体制及び自己点検・評価体制の改善を図るため、運営連絡会においても必要に応じた審議・検討を行い、その意見を踏まえ自己点検・評価委員会で具体策を検討する。	○機構等の主催する研修会等へ役職員を積極的に参加させた。	Ⅲ	有
○業務の集約化、効率化及び合理化を推進するため、費用対効果を考慮した上でアウトソーシング等で対応可能な業務がないか検討する。	○業務改善について、事務局連絡会を通じて業務内容の把握と改善を促す。また、アウトソーシング等で対応可能な業務について、費用対効果を考慮して実施する。	○管理業務の集約やアウトソーシング可能な業務の具体的な洗い出しを行い、費用を勘案し集約手順及びマニュアルの検討に至った。	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
<p>○学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態等を予測し、防止策等に取り組む。</p>	<p>○学校運営等に重大な影響を及ぼす恐れのある事態(リスク)等の発生を予測するため、運営連絡会において危機管理に関する情報共有を図り、防止策等について意見交換を行い、各部署へ適切な指示と必要な情報提供を行う。 ○危機管理基本マニュアル等を点検し、必要な見直しを行う。 ○コンプライアンス意識向上に関する各種研修会等への参加及び本校における研修実施計画を策定する。 ○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施す。</p>	<p>○不適切な会計経理等を防止するため、H28.12.14開催の教員会において留意点等について説明した。 ○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施し、回答内容を確認の上、必要に応じた対策を施した。(回収率:常勤教職員100%,非常勤教職員92%)</p>	Ⅲ	有
<p>○機構及び地区等の主催する各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。 ○コンプライアンスに関するセルフチェックを実施する。</p>				
<p>○学内の監査体制の充実を図る。</p>	<p>○相互監査、内部監査を実施し、監査結果を確認の上、必要な対策を施す。また、現状の監査体制で十分なのかを検証し、必要に応じて監査体制の見直しを行う。</p>	<p>○相互監査:平成28年11月17日,18日に米子工業高等専門学校を監査校として実施され、特段の指摘事項はなかった。 ○内部監査:平成29年1月23日~平成29年1月27日に実施し、特に指摘事項はなかった。 ○物品検査:平成28年12月8日~平成28年12月22日で実施し、大きな問題点はなかったが、ラベルのないものについては再発行し、使用者や設置場所の変更については手続き書類を提出するよう依頼した。</p>	Ⅲ	有
<p>○平成24年3月の理事長通知「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策の徹底について」確実に実施する。</p>	<p>○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を確実に実施させるため、平成27年12月に本校で策定した「呉高専 公的研究費使用マニュアル」により必要事項の周知を行うほか、財務事務室において勉強会を開催し、その徹底を図る。</p>	<p>○「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」及び「公的研究費の管理・監査のガイドライン(平成26年2月18日改正)」を確実に実施させるため、平成28年12月14日の教員会にて公的研究費の不正使用防止及び本校独自の公的研究費使用マニュアルにより説明を行った。また、地区別の勉強会に担当職員を派遣またはテレビ会議にて参加し知識の習得に努めたほか、会計室においても必要な情報共有(勉強会)を行い、その徹底を図った。</p>	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
○事務職員や技術職員の能力の向上のため、各種研修を計画的に実施するとともに、必要に応じ文部科学省、地方自治体及び企業などが主催する研修に職員を参加させる。	○事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会を実施する。 ○国、地方自治体、国立大学法人等が主催する研修会等へ参加する。	○事務職員や技術職員の能力向上を図るための各種研修会の実施と外部の研修会等へ参加させた。 ・カウンセラー特別講演 13名 ・SD研修 20名 ○国、国立大学法人等が主催する研修会等へ可能な限り参加させた。 ○事務職員及び技術職員を対象とした、次の学外研修に参加した。 【高専機構主催】 ・初任職員研修、若手職員研修、グローバルSD、人事事務担当者説明会 4名 【人事院主催】 ・育児休業・女子福祉制度等説明会、改正給与法等説明会 2名 【大学・高専主催】 ・中国・四国地区国立大学法人等安全衛生研修会、中国地区高等専門学校技術職員研修、中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会、中国・四国地区国立大学法人等施設系技術職員研修 14名 【総務省】 情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会 1名	Ⅲ	有
○事務職員及び技術職員については、国立大学や高等専門学校間などの積極的な人事交流を図る。	○近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。	○近隣の大学(広島大学)及び高専(広島商船高専、徳山工業高専、大島商船高専)と面談及び電話等を用いて密に情報交換を行い具体的な方針等を検討した。	Ⅲ	有
○情報セキュリティ対策を適切に推進し、情報システム環境を整備する。	○機構ソフトウェア管理規則に基づきソフトウェア管理検査を実施する。 ○平成28年度末までに向けてPC機器の更新とPC演習室の3室集約化を実施する。	○機構ソフトウェア管理規則に基づき、ソフトウェア管理検査を1月に実施し、機構本部に報告する予定である。 ○平成29年度のパソコン機器の更新仕様を検討し、これに伴いパソコン演習室を現行の6室から4室に再編することに決定し、年度末にパソコンの更新に伴い利用環境が改善された。	Ⅲ	有
○機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、中期計画及び各年度計画を定める。 ○具体的成果指標を検討し、実現に向け努力する。	○機構の中期計画及び平成28年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成28年度年度計画を定める。 ○成果指標について、本校の特徴や各学科の特性に応じた具体的な成果指標の策定に着手する。	○機構の中期計画及び平成28年度年度計画を踏まえ、中期計画及び平成28年度年度計画を定めた。 ○具体的な成果指標については、ディプロマ・ポリシーを策定することで大きな方向性を定めた。	Ⅲ	有
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ○一般管理費の縮減及び随意契約の見直しを行う。	Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 ○不要不急な業務(物品購入・役務)の仕分けを行い、コストを削減するための手段を検討する。 ○電気・ガス・水道・電話・郵便等の公共料金に類する契約を除き、随意契約は行わないとともに、フォローアップを適宜実施する。	○新たな業務(物品購入・役務)の依頼があった際、その必要性・使用目的を確認し、不要不急なもの仕分けを行い、在庫品や他分野で不要となったもので代替可能なものは、新たに購入することなく現有品を再利用することでコストの削減に取り組んだ。 ○少額備品等の購入においても、複数者から見積を取ることで競争性を確保し、適正価格での契約を行った。	Ⅲ	有

# 平成28年度 自己点検・評価に係る報告書

「実施結果」欄は、Ⅰ：「実施していない」、Ⅱ：「十分に実施していない」、Ⅲ「十分に実施した」、Ⅳ：「計画を上回って実施した」

第3期中期計画	平成28年度 年度計画	実施状況	実施結果	次年度予定
<b>Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画)</b> ○自己収入の増加と固定的経費の削減を図る。	<b>Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画)</b> ○自己収入については、学生定員を充足し、入学金・授業料等の学納金収入を確保する。 ○共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保する。 ○事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の削減を図る。	○自己収入については、学生定員を充足し、入学金・授業料等の学納金収入を確保した。 ○事務・事業の継続性及び円滑な実施が行えるよう基盤的経費の配分を行った上で、取組状況等を踏まえ、効果的な執行に配慮し固定的経費の削減を図った。 ○共同研究、受託研究、奨学寄附金、科学研究費助成事業及びその他の外部資金の獲得に積極的に取り組み、自己収入を確保するため、教員会において科研費等の申請の進捗状況を確認し、申請を促した。	Ⅲ	有
<b>Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画</b>	<b>Ⅴ 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画</b> ○重要財産である広職員宿舎(木造)については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。今後、文科省協議、財務省協議の上、文部科学大臣の認可を得た上で、必要な手続きを進める。	○重要財産である広職員宿舎(木造)については、平成27年4月の高専機構役員会で売却又は国庫返納することが承認された。文科省協議、財務省協議の上、文部科学大臣の認可について申請中。	Ⅲ	有
<b>Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項</b> <b>1 施設及び設備に関する計画</b> ○保有施設の長寿命化、省エネルギー化、及び障害者等に配慮した長期的な施設整備計画としてのキャンパスマスタープランを策定する。	<b>Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項</b> <b>1 施設及び設備に関する計画</b> ○施設・整備計画による整備を行うとともに、前年度と同様省エネに努める。 ○長期的な施設整備計画として、資産の有効活用を視野に入れたキャンパスマスタープランについて、平成28年3月の高専機構との意見交換会での意見等を踏まえ、必要に応じて香川高専施設課及び機構本部施設課と具体の検討を行う。	○施設・整備計画による整備を行うとともに、継続して省エネに努めるため、エアコン温度を適正な温度設定とするよう周知した。また、予算削減に対応するためデマンド監視を行い、オーバーしそうな時は、メール等で学内へ協力を呼びかけた。 ○高専“4.0”イニシアティブも視野に入れつつ、機構本部施設課と平成30年度概算の意見交換会を2回行い、図書館改修・ライフライン再生・第六寮改修の概算要求を行っている。また、営繕事業については第四寮2階内部改修・専攻科棟空調機更新・第二体育館外部改修を要求し、第四寮2階内部改修の事業が決定した。	Ⅲ	有
<b>2 人事に関する計画</b> <b>(1)方針</b> ○教職員ともに積極的に人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、資質の向上と職務能力の向上を図る。 <b>(2)人員に関する計画</b>	<b>2 人事に関する計画</b> <b>(1)方針</b> ○平成29年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流を検討する。 ○機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させるほか、本校における研修実施計画を策定する。 ○近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討する。 <b>(2)人員に関する計画</b> ○平成28年度の専攻科改組に伴い、本科のあり方を検討することとしており、その中で、教員の適切な人員配置について検討する。	○平成29年度の高専・技科大間教員交流制度による教員の人事交流は、在外研究員1名を派遣するため見送った。 ○機構及び地区等主催の各種研修会等へ参加させたほか、職務に必要な階層別の研修及び安全管理に必要な研修の受講計画を策定した。 ○近隣の大学及び高専と人事交流に関して意見交換を行い、今後の人事交流のあり方について具体的な方針等を検討している。 ○平成28年度の専攻科改組に伴い、本科のあり方について本科改組WGにおいて検討した。その中で教員の適切な人員配置について検討している。	Ⅲ	有